

## 事例5 作品を見比べ、対話による鑑賞をねらった事例

- 学年 第5学年
- 主な領域 鑑賞の活動
- 事例のポイント

- ①2枚の絵を見比べることで、1枚の絵を鑑賞するよりたくさんの事に気付くことができる。
- ②対話による鑑賞を行うことで、様々な見方や考え方があることに気付くことができる。
- ③自分で好きな絵や気になる絵を1枚選び、それについて鑑賞し、互いの見方の違いに気付いたり、考え方を広めたりすることができる。
- ④ICT端末を用いることで、作品を拡大したり、考えたことを自由に書き込んだりすることができる。またそれを電子黒板で、全体に共有することができる。

### 1 題材名 「比べてみよう 不思議な絵」

【第5学年】B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 鑑賞の活動

### 2 題材について

- (1) 児童の実態(略)
- (2) 本題材を指導するに当たって

本題材は、学習指導要領第5学年および第6学年「B鑑賞」(1)アにあるように、親しみのある美術作品から、造形的なよさや美しさについて、感じ取ったり考えたりして自分の見方や感じ方を深める内容である。1つの作品をじっくり鑑賞しても、その作品のよさや美しさに気付くであろうが、2つの作品と比べて見ることで、それまで気付かなかった絵の特徴にスポットを当てることとなる。そして注意深く観察することで新しい発見につながっていく。

鑑賞する作品は、構図が似ているが、全く印象が異なる現代的な絵と抽象的な絵を用意した。話し合いでは、2枚の絵を比べて見ることを通して、自分の見方や感じ方が友人に共有されていく喜びを味わわせたい。また、対話による鑑賞を行うことで、多くの意見や異なった見方を知り、さらに自分の見方や感じ方を深めさせていきたい。

また、一人一人が様々な作品の中から1つ選んで鑑賞し、語り合うために、ICT端末を用いていく。端末を利用することで、鑑賞する作品を画像データとして、児童全員に送ることができたり、一人一人が感じたことや考えたことをその画像にペンツールなどで書き込むことができたりする。一人で多くの作品を鑑賞したり、言葉だけでは説明しきれないことを書いたりするために、ICT端末を活用していく。

### 3 目標及び評価規準（※〔共通事項〕(1)ア、イはア\_\_\_\_\_、イ\_\_\_\_\_で示す）

#### (1) 題材の目標

- ・ 作品のよさや違いを見付けることから、形や色、描き方など造形的な特徴を理解する。

〈知識及び技能〉

- ・ 作品を比べて似ているところや違うところから、表現の意図や特徴などを感じ取る。
- ・ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・ 主体的に美術作品を鑑賞する学習活動に取り組み、話し合いを通して互いの感じ方の違いを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 作品のよさや違いを見付けることから、形や色、描き方など造形的な特徴を理解している。	鑑 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、 <u>作品を比べて似ているところや違うところから</u> 、表現の意図や特徴などを感じ取っている。	態 <u>話合いを通して互いの感じ方の違いを味わい</u> 、主体的に美術作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

※それぞれの評価規準は「内容のまとめりごとの評価規準（例）」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている（下線部は変更箇所）

4 指導と評価の計画（全2時間扱い）

○：指導に生かす評価、◎全員の学習状況を記録に残す評価

時間	学習のねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等					備考
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		知	技	発	鑑	態	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2枚の絵を比べながら見て、似ているところや違うところについて気付いたり感じたりしたことを話し合う。</li> <li>・選んだ作品をペアで見比べ、感じたことを話し合う。</li> </ul>				◎ 観察 対話 記述	↓ ◎ 観察 対話 記述	「思考・判断・表現（鑑賞）」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ作品をペアで見比べ、表現の特徴やよさを見付けたり、話し合ったりしたことを基に、作品からイメージした台詞（ストーリー）やタイトルを考える。</li> </ul>	◎ 観察 対話 記述			◎ 観察 対話 記述		「知識・技能」、「思考・判断・表現（鑑賞）」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。 「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して把握し、最後に記録に残す。


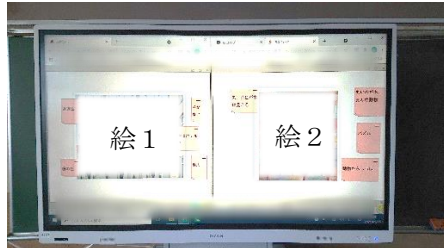

5 本時の学習指導（1/2時間）



- (1) 目標 ・作品を比べて似ているところや違うところから、表現の意図や特徴などを感じ取る。  
 〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 準備

- 教師：P C、電子黒板、デジタル教科書、アートカード
- 児童：I C T端末

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿(「J」)	指導の工夫 (〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____)	評価と手立て 【観点】：評価規準(評価方法) ◎：十分満足できる状態 ◆：B評価に達しない児童への手立て
導入 3分	<p>1 教師の提案を聞き、本時の活動の見通しをもつ。</p> <p>・題材名と提案、学習のめあてを確認する。</p>	<p>提案1 2枚の絵を比べながらよく見て、感じたことを話し合おう。</p> <p>○題字を鏡文字にし、色々な視点で見ることへのきっかけになるようにする。また「何している所?」「おもしろい!」「ふしぎ!」といった具体的な視点を示すことで、絵をよく見られるようにする。</p> <p>○学習のめあても確認することで活動への期待と見通しがもてるようにする。</p>	
展開 22分	<p>2 絵を比べて感じたことを話し合う。</p> <p>・2枚の絵を見て第一印象について問いかける。</p> <p>「1枚目は立体的だけど2枚目は立体的にかかれていないね。」</p> <p>編 P111 指導計画の作成の留意事項(2)</p> <p>・それぞれが考えたことを発表し合い、対話による鑑賞の活動を行う。</p> <p>「右の絵には丸がいっぱいあって、左は人がいっぱい。」</p> <p>「右の丸や棒は木に見えるよ。」</p> <p>「私はランプに見えるよ。」</p>	<p>○絵の全体的な雰囲気や部分的な特徴に着目して感じたことを発言するように問いかける。</p> <p>○全体的の印象を大切に、<u>形や色、動きなどの部分的な特徴にも着目するよう促す。</u></p> <p>○ICT端末に送られたデータカードに、<u>感じたこと、思い付いたことを書き込み、自分の考えを整理できるようにする。</u></p> <p><b>事例のポイント④</b> 作品を拡大したり、書き込んだりして自由にみるができるようにする。</p> <p>○デジタル教科書の付箋を使い、児童の発言を提示することで、どこに着目したか視覚的に分かりやすいようにする。</p> <p><b>事例のポイント②</b> 児童の発言をもとに他の児童にも意見を求め、対話による鑑賞ができるようにする。</p>	<p><b>事例のポイント①</b> 電子黒板に2枚の絵を提示し、見比べることで1枚だけでは気付かない点や似ている点を見付けやすいようにする。</p>   <p>【態】話合いを通して互いの感じ方の違いを味わい、主体的に美術作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。(観察・対話)</p>

	<p>「左の作品は人がいっぱいかいてあって、よく見ると横にちゃんと並んでいる。」</p> <p>「右の作品は、ブロックかな？その上に丸や棒が並んでかいてある。」</p> <p>「左は、牛みたいな動物がかくれているよ。」</p> <p>「僕にはラクダに見えるよ。」</p>	<p><b>事例のポイント②</b>          児童の発言を否定せず受け止め、他の児童にさらに質問し、様々な考えがあることに気付くことができるようにする。</p> 	<p>◎絵の形や色、動きなどの違いや似ているところに興味をもち、互いの考え方を尊重しながら話し合っている。</p> <p>◆同じ形に見えるものや、同じ色などに着目して見るよう助言する。</p>
<p>提案2 選んだ絵をよく見て、感じたことを話そう。</p>			
<p>17分</p>	<p>3 ペアで互いに選んだ作品を比べて見て、感じたことを話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず1枚選び、感じたことや想像したことをデータカードに書き込む。</li> <li>・選んだ作品をペア同士で紹介し合う。</li> </ul> <p>「この向きで見ると、人の顔みたいに見えるけど、どう思う？」</p> <p>「本当だ！気が付かなかった。」</p> <p>「この絵はトラが森の中にいると思うんだけど、どう？」</p> <p>「宝石を守っているように見えるよ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合ったことを発表する。</li> </ul>	<p>○10枚程度のアートカードから気になる作品が選べるように、ICT端末にデータを送る。また、様々な視点で見られるように、上下逆や縦横の向きが違う提示の仕方の作品もあるようにする。</p> <p>○<u>自分がもったイメージを大切に</u><u>にしたコメントを記入する</u>よう声かけする。</p> <p><b>事例のポイント③</b>          鑑賞したい絵を各自1枚ずつ選び、感じたことを話し、友人の意見も聞いて考えが広がるようにする。</p> <p><b>事例のポイント④</b>          選んだ作品を電子黒板に映しながら、話合いの内容を共有することができるようにする。色々な考えがあることに気付くことができるようにする。</p>	<p>【思・判・表 鑑】形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、作品を比べて似ているところや違うところから、表現の意図や特徴などを感じ取っている。(観察・対話)</p> <p>◎構図や動き、気付いた事などを理由に、自分がイメージしたことを説明することができる。</p> <p>◆他のものに見立てられる形や、きれいだと思う色などに着目して見るよう助言する。</p> 
<p>整理3分</p>	<p>4 本時の学習活動を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○人によって様々な見方があったり、共通点があったりしたことに、気付くことができるようにする。</p>	

知＝「知識・技能」の知識に関する評価規準、技＝「知識・技能」の技能に関する評価規準、  
 発＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、鑑＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、態＝「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。

※【記録に残す評価】は□、【指導に生かす評価】は○で示している

## 6 補足

(1) 在籍児童数 32名

(2) 場の設定

- ・ICT端末と電子黒板を用いて、データのやり取りができる環境で行う。自分が考えたことを電子黒板に投影し、クラス全体で共有する。
- ・児童の端末とデータのやり取りができるICT環境なら、オンライン授業でも対応できる学習活動でもある。また、アートカードの数が揃えられるならば、アートカードを用いてグループで活動することも考えられる。

(3) 事例のポイント①について

- ・2枚の絵を比較することで、色々な見方に気付けるようにする。描かれているものの規則性を見付けたり、色の使い方や陰影のつけ方の違いを見付けたりするなど、絵を鑑賞する色々な視点に気付けるようにし、提案2の活動につなげていく。

(4) 事例のポイント②について

- ・作品の題名等は説明せず、感じたことをそのまま発言させ、それを教師が受け止めさらに発問していく。作品の題名などを求めるのではなく、同じ見方や違う見方がそれぞれあるということに気付かせながら、対話による鑑賞を行っていく。答えがあるという学習ではなく、芸術作品に触れるきっかけとなるような学習にしていく。

(5) 事例のポイント③について

- ・写実的な作品から抽象的な作品まで幅広いアートカードを用意し、誰でも気付きや面白みがもてるようにする。また上下が分かりにくい作品も用意し、自由な向きで鑑賞できるようにもする。
- ・立体作品のアートカードもあるが今回は平面作品のみ用意する。公園等に設置してある立体作品を実際に鑑賞できる環境があるならば、立体作品を見比べて鑑賞することも考えられる。また、ICT端末を用いて写真で撮り込み、本時と同じような展開を行うことも考えられる。

(6) 事例のポイント④について

- ・考えをまとめるために、ICT端末で活動することで、フルカラーのデータ上のアートカードに文章やライン、矢印など自由にペンツールで表現することができる。